

## 平成 28 年度 株式会社リオ・ホールディングス 連結事業報告書

当連結会計年度（平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日）における国内経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和等の効果により、企業業績や雇用環境が堅調に推移し、緩やかな回復基調が続きました。一方海外経済においては、英国の EU（欧州連合）離脱決定や米国の新政権への以降に伴う不透明感が高まってきております。

不動産業界においては、賃料上昇の期待や良好な資金調達環境を背景に不動産取引が活発に行われました。取引の活性化に伴い、都心部の物件を中心として不動産価格は上昇傾向にあります。東京都心 5 区における平成 28 年 12 月末時点の平均空室率は 3.61%と、前年同月比 0.42 ポイント下落しました。また、同エリアの同時点における平均賃料は 18,540 円/坪と、小幅ながら引き続き上昇しています（三鬼商事調べ）。

このような状況の中、当連結会計年度も引き続きコンサルティング案件数及び不動産預り資産残高の増加に向けて取り組みましたが、不動産価格の上昇に伴い、新規スペシャルサブリース（利回り保証付建物賃貸借）物件の増加ペースは鈍化しております。また、新規及び既存のスペシャルサブリース物件に対して、収益力向上のための大規模改修工事を複数件実施したことにより、売上原価が大幅に増加いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高 11,004 百万円（前期比 24.0%増）、営業利益 870 百万円（前期比 23.4%減）、経常利益 621 百万円（前期比 31.3%減）、当期純利益 701 百万円（前期比 29.1%減）となりました。